

# 仕事の 空心

## 身近な原料を使った 肥料の利用事例



レタスのほ場



力強く育ったキャベツ

【農業生産法人株式会社マルヨシ  
ファーム 長嶺 久雄 さん】  
当社では、肥料を使ってレタスやキャベツ等を栽培し、主に学校給食の食材として出荷しています。汚泥肥料は他の堆肥と変わりなく使うことがで  
き、堆肥と比べて臭いも抑えられる  
ため使いやすいです。また、農作物の生育状態については、化学肥料と変わ  
りありませんが、汚泥肥料を使った  
方が力強く育つ印象があります。実際

昨年の群星9・10月号（※）では、下水汚泥やし尿汚泥、食品残さ等の身近な原料から作られる「汚泥肥料」について解説し、このうち食品工場由來の食品残さを原料として汚泥発酵肥料を生産している大城有機肥料をご紹介しました。  
今回は、この汚泥発酵肥料（「汚泥肥料」）を利用して、レタスやピーマン等を生産している農業生産者へ、肥料の使用状況などをお聞きしたのでご紹  
介します。

【ピーマン農家 玉城 永吉 さん】  
過去には、塩類障害が頻繁に生じて  
いましたが、使用する肥料を汚泥肥料  
に変えてからは解消され、立派に育つ  
ようになりました。取引先からは「お  
宅のピーマンは毎年質が高いので助

に、12月頃に収穫したレタスやキャベツも、取引先に喜ばれるほど立派なものとなりました。皆様にも、大きくみずみずしく育った農作物を是非一度食べていただきたいです。

かっている。」との評価をいただいて  
おります。



キャベツを収穫する長嶺氏

また、使用している汚泥肥料には木  
材チップも含まれています。保水力が  
高いため、散水の回数が少なくて済み  
ます。さらに、ほ場の通路に敷くこと  
で作物の根を保護するとともに、雑  
草を抑制する役割も果たしてくれます。

このように、身近にある原料が汚泥  
肥料として利用され、農作物が美味しく育つ  
ことを知つていただければと思います。

引き続き当局では、「汚泥肥料」に  
対する農業者や消費者のイメージ改善、未利用資源の地域への循環のPR  
など、地域の理解の促進に向けた情報  
発信に取り組んでまいります。

※群星9・10月号の記事は  
こちらからご覧いただけます。



収穫直前のピーマン

